

授業科目	保育内容「言葉」の指導法				実務家教員担当科目	-					
単位	1.	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	阿南 寿美子										
授業概要	<p>子どもの言葉の育ちについて学び、またその言葉の育ちを支える保育者の援助や環境の在り方について、様々な事例と視聴覚教材を通して理解を深める。</p> <p>児童文化財についての理解を深め、子どもの言葉を支えるための実践研究を行う。</p> <p>本科目は認定絵本土養成講座の対象科目である。</p>										
授業形態	演習		授業方法	グループワークや実践を中心に授業を行う。							
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>1 保育内容「言葉」のねらいと内容について理解することができる。</p> <p>2 乳幼児期の言葉の育ちの過程について、映像を通して理解することができる。</p> <p>3 子どもの言葉の育ちを支える児童文化財の教材研究を行い、グループ活動を通して実践的指導力を身につける。</p> <p>4. 言葉の獲得には遊びやモノを媒介とした人とのコミュニケーションが必要であることを認識し、子どもとのかかわり方について理解することができる。</p> <p>また、子どもの言葉を支える様々な児童文化財を知り、発達にそった教材研究を行うことで実践力が身につける。</p>										
理想的レベル	<p>幼児の言葉の発達は、様々な遊びや環境とのかかわりの中で育っていくことを理解する。従って自らの子どもに対する姿勢、保育の在り方を認識することで指導力が深める。</p> <p>また、言葉の育ちを支える児童文化財の出合わせ方について工夫し、実践していくことができる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）			備考							
試験											
小テスト											
レポート	40%										
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%										
レポート外の提出物	30%			コメントシートやワークシートなど							
その他	10%			授業時への参加度など							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH21310J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
<p>講義内容を振り返る。</p> <p>発表に向けて準備を行う。</p>										1	
授業計画											
第1回	<p>テーマ： オリエンテーション</p> <p>授業の概要について説明し、授業の目的、達成の目安、評価の内容と方法を理解する。</p>										

	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」について理解する。
第2回	<p>テーマ： 絵本の教材研究と実践①</p> <p>乳幼児期における絵本の役割について理解する。</p> <p>絵本の読み方、留意点について理解する。</p> <p>絵本各論②：絵本の視覚表現・絵本の言語表現について知る。</p>
第3回	<p>テーマ：絵本の教材研究と実践②</p> <p>絵本各論③：子どもの知的・社会的発達と絵本との関わりについて学ぶ。</p>
第4回	<p>テーマ：言葉と文字の広がり</p> <p>絵本の読み聞かせを各自発表し、実践について振り返る。</p> <p>絵本読みについての反省点と今後の課題について記入する。</p> <p>文字に興味・関心を育む環境の在り方について学ぶ。</p> <p>絵本の持つ力：絵本が持つ力のとらえ方、絵本についての批評について知る。実践記録を通して文字に関心を示す環境の在り方を説明する。</p>
第5回	<p>テーマ：絵本に触れる</p> <p>実習で読んだ絵本を振り返りながら様々なジャンルの絵本に触れる。</p> <p>様々なジャンルの絵本：物語を題材とした絵本の特性・絵本における絵と言葉で語る技法について理解する。</p>
第6回	<p>テーマ：言葉が育つ環境の在り方</p> <p>言葉が育つ環境的条件、子どもの言葉を豊かにする環境条件について学ぶ。</p> <p>絵本と出会う②：保育・教育現場における絵本の意義、保育・教育現場における絵本を用いた活動の具体的取り組みについて知る。</p>
第7回	<p>テーマ：多様な子どもへの支援</p> <p>事例を通して、子どもの言葉の発達の様子を学ぶ。</p> <p>心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）</p>
第8回	<p>テーマ： 言葉を育む児童文化財①</p> <p>紙芝居、ペープサート、パネルシアターについての特徴と実践上の留意点を学ぶ。</p>
第9回	<p>テーマ： 言葉を育む児童文化財②</p> <p>劇あそび、ごっこ遊びの実際について実践上の留意点など、事例を通して考える。</p>

第10回	<p>テーマ：言葉を育む児童文化財③</p> <p>遊び歌やわらべ歌の動きのおもしろさや歌遊びについて学ぶ。</p>
第11回	<p>テーマ：模擬保育①</p> <p>児童文化財を用いた実践研究を行う。</p>
第12回	<p>テーマ：模擬保育②</p> <p>個別またはグループに分かれて実践を行う。</p>
第13回	<p>テーマ：言葉の発達を促す保育</p> <p>乳幼児期の言葉の発達と保育者の援助について理解する。</p>
第14回	<p>テーマ：子どもの言葉と保育者のかかわり</p> <p>事例を通して、子どもの言葉から発達や心の汲み取り方について幼児理解のあり方を学ぶ。</p>
第15回	<p>テーマ：まとめと振り返り</p> <p>資料を整理しながら講義内容を振り返る。</p>
テキスト	生活事例からはじめる保育内容言葉、徳安敦、堀科、山本弥栄子編著、青踏社、1,900円＋税
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>絵本専門士委員会「認定絵本土養成講座テキスト」（独立行政法人国立青少年教育振興機構発行）</p> <p>久富陽子 「保育実践－児童文化財の魅力とその活用・展開－」 萌文書林</p> <p>高山智津子・富永満理「絵本で広がる子どものえがお－発達にそった年齢別読み聞かせ」 チャイルド社</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）</p>
課題に対するフィードバックの方法	実践発表等については全体に対して解説を行う。
学生へのメッセージ・コメント	<p>各種実習での子どもの様子や保育の在り方について振り返っておく。また児童文化財の内容や方法等について理解しておく。特に「子ども文化」はよく復習しておく。</p> <p>個人研究発表、グループ研究発表を随時授業内で発表していく。さらに授業で出された課題についてグループ協議を行う中で、積極的に自分の考えを出し合う姿勢を持っていただきたい。</p> <p>また、保育の中での言葉を育む活動について自ら実践することをイメージしながら受講してください。</p>